

学力等の諸調査結果について

1 英語検定について

英語検定に関する状況調査の結果

令和5年度 (令和6年3月の状況)	○ 令和5年度における中学校1年生の5級以上の取得率は68.7%、中学校2年生の英検4級以上の取得率は55.5%、中学校3年生の英検3級以上の取得率は43.4%でした。国の第3期教育振興計画における目標「中学校卒業時にCEFR A1（英検3級相当）以上を達成した生徒50%以上」には至りませんでした。国が実施する「英語教育実施状況調査」におけるCEFR A1（英検3級相当）以上を取得している中学校3年生の全国値27.3%（令和4年度調査）を大きく上回っていました。
----------------------	---

※ 今後も各小学校における1・2年生の英語活動、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科（英語）、各中学校における外国語科（英語）及び英語表現科を通じた英語教育の充実に努めます。

2 学力調査について

全国学力・学習状況調査の結果【生活習慣に関する項目】

令和5年度 小学校6年 中学校3年	○ 「朝食を毎日食べていますか」の質問では、小・中学校ともに肯定的な回答が90%程度と概ね良好な傾向でしたが、中学校は全国及び県をやや下回りました。 ○ 中学校において、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問では、小・中学校ともに全国及び県を大きく上回っていました。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」では、小・中学校ともに令和4年度より肯定的な回答に改善傾向が見られました。
-------------------------	--

※ 望ましい生活習慣を身に付けた児童生徒を育成するために、今後も家庭や地域との連携に努めます。また、えびの学を中心として、ふるさとを愛し、ふるさとに自信と誇りをもつ児童生徒及び地域に貢献しようとする気概をもつ児童生徒の育成を目指します。

全国学力・学習状況調査の結果【国語・算数/数学・英語】

令和5年度 小学校6年 中学校3年	○ 小学校については、国語、算数ともに、全国及び県の平均をやや下回っていました。 ○ 中学校については、国語は県の平均と同等であり、全国平均をやや下回っていました。数学は、県平均を上回っていましたが、全国平均をやや下回っていました。英語は、県平均と全国平均をやや下回っていました。 ○ 小・中学校ともに、全教科において、無解答率が全国及び県の状況と比較すると低く、粘り強く取り組んでいるものの、記述式の問題については、全国及び県の正答率を下回る傾向が見られました。 ○ 国語では、提示された情報を基に、条件に合わせて、書き表し方を工夫することに課題が見られました。特に、中学校では、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることに課題が見られました。算数・数学ともに「図形」の領域において課題が見られました。小学校では、三角形性質や底辺と面積の関係についての理解や記述して表現することに課題が見られました。中学校では、三角形の合同について証明することに課題が見られました。英語では、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られました。
-------------------------	---

みやざき小中学校学習状況調査の結果

小学校（小4）【国語・算数】

中学校（中1）【国語・社会・数学・理科・英語】

令和5年度 小学校4年 中学校1年	<p>○ 小学校については、国語と算数において県平均をやや下回っていましたが、ほぼ同等な状況でした。国語では、物語の内容を読み取る問題において成果が見られました。「書くこと」の領域及び記述形式の問題において課題が見られました。算数では、「数と計算」「データの活用」の領域において成果が見られました。「グラフ」や「わり算」の領域及び記述形式の問題において課題が見られました。</p> <p>○ 中学校については、国語、社会、数学、理科、英語において、県平均を上回っており、おおむね良好でした。英語の「与えられたテーマについて自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書く」問題については県平均を大きく上回っていました。</p>
-------------------------	---

えびの市総合学力調査「みなほ」の結果

小学校（小1～3）【国語・算数】、（小5・6）【国語・社会・算数・理科】

中学校（中2）【国語・社会・数学・理科・英語】

令和5年度 小学校1・2・3・5・6年 中学校2年	<p>○ 小学校については、各学年ともに、国語、算数において目標値を上回っており、良好な状況でした。小学校5学年は、社会科及び理科においても目標値を上回っていました。</p> <p>○ 中学校2学年については、調査対象の5教科全てにおいて、目標値を上回っており概ね良好な結果でした。特に、数学においては、目標値と全国平均値を大きく上回っていました。</p>
---------------------------------	--

※ 調査対象の学年や教科に限らず、児童生徒の学びの姿を示す「ひなたの学び」を意識した授業改善を推進します。「主体的・対話的で深い学び」を通して、粘り強く問題の解決に取り組もうとする態度の育成に努めます。また、単元末や学期末の学びの見届けや学年末の学びの確認などによる学習内容の定着や習熟を図るために、学校の組織的な取組の充実に努めます。

3 新体力テストについて

新体力テストに関する調査の結果

令和5年度 小学校1～6年 中学校1～3年	<p>○ 小学校第5学年については、男女ともに「握力」「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」「体力合計点」において全国平均を上回っていました。男女ともに「50m走」「立ち幅跳び」に課題が見られました。</p> <p>○ 中学校第2学年については、男女ともに「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」「体力合計点」において全国平均を上回っていました。男女ともに「握力」「上体起こし」「50m走」に課題が見られました。</p>
-----------------------------	---

※ 学校ごとに各学年の児童生徒の体力・運動能力の実態に基づいた「スクールスポーツプラン」を作成し、課題のある項目について重点的な指導を行います。また、学校の教育活動全体を通じた計画的・継続的な取組により体力の向上に努めます。